



コロナ禍における教育活動について

本日から2月となりました。2月は昔から「如月（きさらぎ）」と言われます。その由来は諸説ありますが、まだまだ寒さが厳しい時期のために、更に衣を重ね着するという意味から「衣更着（きさらぎ）」になったという説が最も有力とされています。また、「如月」には寒い冬が終わり、春に向かって万物が動き始める時期という意味もあるそうです。校長室に飾っている洋蘭の花も咲き始め、寒さの中にも春の訪れを感じる季節となりました。しかし、新型コロナウイルス感染症については、全国的に拡大傾向が続いており、医療機関はもちろんですが、学校や幼稚園・保育園、企業、介護施設等にも多大な影響を与えております。本校においても感染対策に努めておりますが、その対応には苦慮している毎日です。保護者の皆様には急な変更等でご心配やご迷惑をおかけしていることと思いますが、何卒、ご理解いただき、引き続き感染予防に努めていただきますよう、お願いいたします。



また、現時点では保健所及び教育委員会の判断により、学校で陽性者の発生が確認されても、直ちに当該学級全体を早退させたり、閉鎖等の措置は取らないこととなっております。（ただし、教育委員会の判断で状況によっては保健所による特定の前に濃厚接触者になる可能性のある生徒のみを自宅待機とする場合もあります。なお、濃厚接触者の範囲等に関する保護者の皆様への連絡についても保健所業務逼迫のため、数日後になってしまうこともあります。ご心配な点も多々あるかと思いますが、藤沢市立学校共通の対応であることを、ご理解いただければ幸いです。

そして、この度の2年生の学年閉鎖についてですが、過日のプリントでもお知らせしたとおり、約2週間にわたり複数のクラスで原因不明の頭痛・腹痛・嘔吐・下痢等の症状で欠席をする生徒が多かったために、教育委員会（保健所）および学校医とも相談の上、本校で決定いたしました。したがって、医療機関等から陽性者の発生を伝えられ、対応したケースではないことを申し添えます。既にお示ししている内容ですが、現時点での出席停止について改めて記載いたします。

- (1) 健康調査票の「風邪の症状や発熱」（下の「発熱の基準」をご確認ください）がある場合（解熱剤を飲み続けなければならない場合も含む）
- (2) 息苦しさ、強いだるさ、高熱等の強い症状がある場合
- (3) 濃厚接触者又は検査対象者等について
 - ・ 児童生徒又は同居家族が、濃厚接触者となった場合
 - ・ 保健所の指示により、児童生徒が接触者となった場合
 - ・ 児童生徒の同居家族が発熱や症状があり、かつ、医師や保健所の指示で、新型コロナウイルス感染症の検査（PCR検査、抗原検査）を受ける場合

<出席停止としない場合の事例>

- ・ 児童生徒や同居家族が、新型コロナウイルス感染症以外の理由で入院するために検査を行う場合
- ・ 同居家族が医師や保健所の指示でなく、発熱や症状のない状態で自主的な検査を行っている場合
- ・ 同居家族の勤務先が医療機関である等の理由で検査を実施する場合
- ・ 同居家族が海外から帰国し空港での検査の結果は陰性であったため、自宅待機となっている場合

- (4) 海外からの帰国による自宅待機期間中にあたる場合
- (5) 持病があり、感染すると重症化する恐れがある場合
- (6) 保護者からの申し出により、児童生徒の同居家族に高齢者や基礎疾患があるなどの合理的な理由があると校長が判断する場合、又は当面の間において、感染への不安によりお子様の登校を控えると保護者から申し出があった場合
- (7) 児童生徒が新型コロナウイルス感染症に感染した場合
- (8) 児童生徒が新型コロナウイルスワクチン接種を受ける時又は新型コロナウイルスワクチン接種による副反応が出た時に学校を休む場合

また、お子様が万が一、陽性者となった場合は「症状が出始めた日」「受診した医療機関名と受診日」「医師や保健所の指示」についてご連絡いただくと共に、お子様自らSNS等でそのことを発信することないようにご配慮ください。

「学びを止めない！」～ICTを活用した学習指導について～

先ほど述べたように感染拡大の影響により、今後、学級閉鎖等の臨時休業や感染への不安から登校を控えるなど、やむを得ず学校に登校できない生徒等が増加することが考えられます。そこで、本校でも、お子様やご家庭の状況を踏まえながら、1人1台端末を有効的に活用し、感染の影響により登校できなくてもICTを活用した学習指導等を可能なかぎり、進めてまいります。

今回の2年生の学年・学級閉鎖においても、クラスごとに特別時間割を編成して原則5時間のオンライン学習及びプリントによる指導を実施しました。各教科担任からも「生徒一人ひとりが落ち着いて前向きに取り組んでいた。」という報告を受けています。本校もまだまだ手探りで始めている状態ですが、一つ一つの課題を解決しながら効果的なICTを活用した学習指導ができるように努めてまいります。なお、陽性者や濃厚接触者として登校できない場合も、ご希望があれば、授業のライブ配信等で学習の保障をできるだけ担保してまいります。

なお、ICTを活用した学習指導について藤沢市教育委員会から「保護者の皆様にご理解いただきたいこと」の連絡がありましたので、次のとおりお伝えいたします。

- (1) オンラインを活用した学習は、児童生徒の学習機会の確保を目的としていますので、目的外の利用は行わないでください。また、学習動画等の録画や画面を写真・スクリーンショットなど、撮影することはできません。
- (2) 配信については、学級または学年内の児童生徒に限定されます。個人情報の保護には配慮し黒板を中心に授業の様子を撮影する際は、お子様の声や姿が入る場合があることをご理解ください。
- (3) 教科や、取り扱う単元の特性上、オンラインでの配信が難しいものがあることをあらかじめご理解ください。

「進路への取り組みは子どもを大人にする」

「校長先生、合格しました！」私立高校の推薦試験を受けた生徒がわざわざ校長室まで報告にきてくれました。感謝の気持ちを忘れず、お礼に来てくれる誠実な姿勢には心打たれます。これから私立高校の一般受験、公立高校の共通選抜と受験はまだまだ続きます。現在、3年生はそれぞれの目標に向かって全力で取り組んでいます。勉強はもちろんですが、面接も重要です。学校でも3年生の先生方はもちろん、私も含めて他学年の先生方にも協力いただいて毎日のように面接練習をしています。入試でより良い受け答えができるように努力している3年生ですが、「高校で何をしたいのか?」「自分自身の良い所は?」予想される質問の回答を考える過程は、同時に自分自身と向き合う良い機会にもなっていると思います。また、将来について「私は人の役に立ちたい。そして体力には自信があるので、警察官になりたい。」あるいは「私は滝中の先生の姿を見て、教師になりたい。」と力強く答える生徒もあり、実に頼もしく感じました。3年生の皆さん、あともうひと踏ん張りです。頑張り!

貴重なご意見、ありがとうございました～学校評価

～

12月には大変ご多用の中「学校評価」にご協力いただき、ありがとうございました。結果については後日改めてお知らせいたしますが、生徒指導や部活動、行事等については厳しいご意見もいただきました。保護者のお立場からご意見をいただくことは、本校の発展にとって欠かせないものだと考えております。ご指摘いただいた点は真摯に受け止め、今後、改善を図ってまいります。また、学校や教師の思いが十分にご理解いただけていないと感じる部分については学校だよりや学年・学級通信等、様々な機会を通じて丁寧な説明が必要だと感じています。

そうした中で「子どもたちは元気でおおらかに育っており、先生方の懐の深さ、子どもたちを信頼する姿勢を日々感じています。何より前向きで思いやりの深い魅力的な先生方が滝中には多いと思っています。」といった有り難いお言葉もいただきました。とても励みになります。ありがとうございました。今後も保護者の皆様と共により良い学校づくりに努めてまいります。

「新しい時代に育む豊かな学びとは」～かながわ学力向上シンポジウム～

1/23(日)新しい学習指導要領やGIGAスクール構想、新しい生活様式など、新しい時代に育む豊かな学びについて、学校の教員・指導主事、保護者、学識経験者、児童・生徒、総勢150名程度の人々が参加して「かながわの学びづくり」や学力の向上について考えるシンポジウムがオンラインで開催されました。その中でコメンテーターとして参加していた横浜国立大学教育学部池田敏和教授から「豊かな学び」について、次のような貴重なご示唆をいただきました。

例えば、小学校の算数の授業で分数のわり算を学習しているとします。先生が「分数のわり算のときにはわる記号の後の分数の分子と分母を入れ替えてかければいいんです。わかりましたか？」と児童に問いかけたとします。そして、Aさんは「わかりました。」Bさんは「まだ、わかりません。」と答えたとします。その時、皆さんはどちらの児童が豊かな学びにつながる考え方をしていると思いますか。やはり、解き方がわかったAさんでしょうか。私は必ずしもAさんとは言えないと思います。Bさんがわからないのは、解き方がわからないのではなく、「どうして分子と分母を入れ替えてかければいいのか。」その理由がわからないかもしれません。Aさんのように、その理由にこだわらずに解き方だけを覚えて満足する子どもと、その理由にこだわり、解き方を探求しようとするBさんでは、その後の成長に違いが出てくるのではないのでしょうか。

このようなお話しをされた後、「成長できない考え」と「成長する考え」を次のようにまとめ、ご説明いただきました。

＜成長できない考え＞	＜成長できる考え＞
結果がすべてと考える	プロセスを大切にする
「自分をよく見せたいという」欲求	「学びたい」という欲求
失敗する可能性がある挑戦を避ける	挑戦を喜んで受け止め、逆境にぶちあたっても粘り強く堪える
自分が持っている資質・能力は限られている	自分の持っている資質・能力は努力によって伸ばすことができる。

この説明を聞いたときに、私は自己肯定感が育まれている人とそうではない人との違いと似ているなぁと感じました。一般に次のように言われています。

＜自己肯定感が低い人＞	＜自己肯定感が育まれている人＞
自分の存在のより所がぐらついているため、常に他人の評価を気にして、自分に向けられた他者からの言動に一喜一憂しがち	周囲の評価に依存せず、気持ちが安定している
他人をねたむ。もうこれ以上傷つきたくない、自分を守ることで精一杯となる	自分の持っている力を信じていることができる
周りに関わることを拒否する。先に進むことをやめてしまう	困難に対しても立ち直り、踏み出す力強さ、柔軟性がある

先日、大学共通テスト当日、試験会場の前で刃物によって人を切りつけたり、同じ共通テストの試験中に問題を不正に撮影し、外部に送るといった大変残念な事件がありました。事件を起こしてしまった男子高校生や女子大学生、どちらもその動機について「成績が上がらず、悩んでいた」といった趣旨のコメントが報道されています。二つの事件が起きてしまった要因を安易に決めつけることはできませんが、「結果がすべて」という強い価値観が関係しているのではないのでしょうか。共に大学合格を目標にしている学生なので、成績の結果に一喜一憂するのは当然だと思います。しか

し、何があっても法に触れるような罪を犯してはいけないという強い倫理観や道徳心が事件を犯す歯止めになることはいうまでもありませんが、それ以外にも「結果だけが全てではない」という考え方が少しでもあれば、事件は起きなかったかもしれません。この事件を通して、改めて我々大人が子どもたちに目標に向かって日々努力していくプロセスこそが大切であるということを感じなければならぬと感じました。私も自己肯定感が決して高い方ではないので、少しずつでも自分の良さを再認識できたらと思っています。

「学校はまるで美術館」 ～タウンニュース1/7号に掲載～

「『絵がうまく描けないのを理由に美術を嫌いにならないで』という思いで、美術教科の楽しさを伝えている学校がある。廊下や階段の壁には1年生から3年生の計500点の作品がずらり。学校を美術館に見立て、数多くの作品を飾ることで、校舎は華やかに、生徒にとっては自信や向上心が高まるきっかけとなる相乗効果をもたらしている。」



上のような記事と写真がタウンニュース1/7号に掲載されました。確かに本校のように校舎内の至る所に生徒の作品が常時これだけ展示されている学校もなかなかないかと思います。コロナ禍で授業参観も実施しづらい状況ではありますが、校舎内に入る機会がありましたら、ご覧になっていただければ幸いです。

生徒会活動を市内に発信 ～Stopいじめ！中学生の集い～

1月15日（土）いじめや暴力のない学校づくりを目指して他校の活動報告や意見交換をする「Stopいじめ！中学生の集い in ふじさわ」がオンラインで開催されました。本校からは「いじめ撲滅規約」について発表し、全校にいじめ防止に向けたスローガンを募集していることを報告しました。参加した本校の生徒会本部役員から次のような感想をもらいました。



- ・今回の会議で自分たちには何ができていて、何ができていないのかよく知ることができた。そして、他の学校での取り組みから今後、自分たちが企画していくヒントをたくさんいただいたので、参考にしていきたい。
- ・他校の『あいさつ運動』の様子を聞いて、私は「あいさつを毎日してもらえる滝中っていいなあ」と改めて感じました。なぜなら、あいさつこそが滝中を明るくしたり、いじめをなくしたりすることにつながると思うからです。

皆様の真心に感謝いたします～カンボジア靴奇贈プログラム～

先日、藤沢市内のロータリークラブから廃棄されてしまう使用済みの靴などを学校等から回収し、カンボジアに寄贈する奉仕活動に協力して欲しいという依頼がありました。本校でも12月に生徒会本部から協力を呼びかけたところ、靴10足、石けん36個、タオル14枚の提供がありました。ご協力いただいた生徒・保護者の皆様、本当にありがとうございました。長い内戦の歴史を持つカンボジアでは、まだまだ体育教育の普及が遅れており、裸足でスポーツを行う子どもの姿が多く見受けられるそうです。皆様の真心がきっとカンボジアの子どもたちを笑顔にすることにつながると信じています。

転居等の連絡は早めにお願ひします

年度末が近づき、来年度の生徒数の推移が気になる時期となりました。言うまでもなく、クラス数は生徒数によって確定いたします。特に2年生はあと数名増えると、新学年では7クラス（通常級）になるという状況です。したがって、転居等で転出する可能性がある場合は、できるだけ早めに担任または教頭までご連絡いただければ幸いです。何卒よろしくお願ひいたします。なお、学区

内に転居した場合もご連絡が必要となることを申し添えます。